

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成22年9月30日)

事業コード	H22 - 建 - 終 - 2		区 分	国庫補助	県単独
事業名	国道特殊改良事業		部 局 課 室 名	建設交通部	
事業種別	道路改築(現道拡幅)		班 名	道路課 道路建設班 (tel)018-860-2493	
路線名等	一般国道101号		担 当 課 長 名	大塚 行雄	
箇所名	能代市寿域長根(能代南拡幅)		担 当 者 名	主幹(兼)班長 菅原 喬	
総合計画との 関連	政策コード	U	政 策 名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備	
	施策コード	3	施 策 名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備	
	指標コード	2	施策目標(指標)名	県管理国道改良率	

1. 事業の概要

事業の 背景及び 目的	<p>国道101号は青森市を起点とし、日本海沿岸を南下し、能代市、男鹿市を経て秋田市に致る幹線道路である。また沿線には津軽、男鹿両国定公園や世界遺産に登録された白神山地を擁することから、観光道路としての機能も有している路線である。</p> <p>計画区間は、国道7号から能代市の中心市街地にアクセスする4車線の道路として都市計画決定されているうえ通学路指定路線にもなっているが、現況は2車線で歩道も狭く、慢性的な交通渋滞が発生しているため、早期に安全かつ円滑な交通の確保が必要である。</p>						
	事業期間	前回(H16年) H14年 ~ H18年 終了 H14年 ~ H19年	総事業費	前回(H16年) 15億円 終了 14億円	国庫補助率	5/10	
事業効果の 要因変化 及び 発現状況	事業規模	前回(H16年) 延長L = 400m 幅員W = 22.0m(3.5 - 0.5 - 6.5 - 1.0 - 6.5 - 0.5 - 3.5) 終了 延長L = 400m 幅員W = 22.0m(3.5 - 0.5 - 6.5 - 1.0 - 6.5 - 0.5 - 3.5)					
	事業費 内訳内容 (千円) 及び 要因変化	前回評価計画	最終	増減	理由		
		事業費	1,500,000	1,415,000	-85,000		
		経内費	工事	456,500	293,500	-163,000	電線管理者の同意が得られなかったことによる電線共同溝の減
			用補	908,000	961,660	53,660	建物調査の結果による建物補償費等の増額
	その他	135,500	159,840	24,340			
	事業内容	調査・設計 用補費 改良・舗装工	調査・設計 用補費 改良・舗装工				
	コスト・効果対比較	費用便益変化の主な要因(前回評価 終了)					
	最終コスト 終了C / 前回評価C = (0.94)	【便益】 変化なし					
	費用便益 前回評価B / C = (2.1) 終了B / C = (2.8)	【費用】 電線管理者の同意が得られなかったことによる電線共同溝の減					
目標 達成率	指標名	県管理国道改良率(累計)					
	指標式	改良率(改良済延長 / 路線実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値a	91.6%		データ等の出典	あきた21総合計画H20目標 H20道路現況調査		
	実績値b	92.6%					
	達成率b/a	101.1%		把握の時期	平成21年 4月		
指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 データの出典含む							
自然環境の 変化	雨水等の処理のため、路面に勾配をつけ側溝により流末処理を行うことで、自然環境へ影響を及ぼさないように配慮している。						
社会経済 情勢の変化	H18年3月21日、旧能代市と旧二ツ井町が合併して能代市となる。						
事業終了後の 問題点及び管 理・利用状況	・2車線から4車線への整備により、円滑な交通の確保が図られている。 ・対象整備区間は400mであったが、継続工区として整備されている能代拡幅(840m)が完了することで、より一層の整備効果が図られる。						

住民満足度等の状況 (事業終了後)	<p>満足度を把握した対象 受益者 一般県民 (時期:平成 年 月)</p> <p>満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (能代拡幅の全体延長は1,240mである。今回完成区間は第1工区の400mであるため、第2工区の840mが完了した後、整備区間全体に対するアンケートを実施する。)</p> <p>満足度の状況</p>
上位計画での位置付け	あきた21総合計画における施策「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」を支援する事業
関連プロジェクト等	<ul style="list-style-type: none"> 秋田国体(H19開催、能代市:バスケットボール、高校野球) 能代港多目的国際ターミナル 国道7号能代拡幅歩道整備事業
前回評価結果等	<p>選定または継続 改善 見直し 保留又は中止</p> <p>指摘事項</p>
	<p>なし</p> <p>指摘事項への対応</p> <p>なし</p>

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	<p>住民満足度の状況</p> <p>A B C</p> <p>能代拡幅の全体延長は1,240mである。今回完成区間は第1工区の400mであるため、第2工区の840mが完了した後、整備区間全体に対するアンケートを実施する。</p>	A
	<p>事業の効果</p> <p>A 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満</p> <p>当該事業は、計画通り進捗し、あきた21総合計画の県管理国道改良率目標を上回った。</p>	B
	<p>事業の経済性の妥当性</p> <p>A B C</p> <p>費用便益比は1.0を上回っていることから、本事業は経済的に妥当であったと評価できる。</p>	C
効率性	<p>コスト縮減の状況</p> <p>A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし</p>	B
		C
総合評価	<p>A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い)</p> <p>計画に沿って着実に進捗し、地域住民の利便性の向上や交通安全の確保が図られるとともに観光道路としてもその機能を発揮していることから、当事業は概ね妥当性であると評価できる。</p>	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業開始前の予備調査や設計段階で現場の把握や、実施・詳細設計における適正な事業費の算出に努めるとともに、工法の工夫や廃材の再利用などコスト縮減に関しても積極的な取り組みをし、効率的な事業執行に努める。

当該道路では、事業費は予定内であり、有効性・効率性は評価できると認識しているが、用地補償に時間を要し、計画期間よりも1年遅れた完成となったことから、同種事業の実施にあたっては、事前調査をより十分に行い計画期間内完成に努める。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	B
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	